

# 「OR研究の最前線」がスタートします

編集委員会

日本におけるオペレーションズリサーチに関する研究は非常に高い水準にあります。国内はもちろん、国際舞台で多くの日本人が新しい研究結果を発表しています。実際、最近開催されたORに関する国際会議のプログラムあるいは最近発行された国際的な論文誌を手にとって見れば、そこに多くの日本人の名前を見つけることができます。しかし、論文誌に掲載された原著論文を読もうと努力しても、おそらく難しすぎて、何を研究しているのか、どんな結果が得られているのかについて、その分野を専門的に研究している人以外にはよくわからないでしょう。本誌の読者にとって、ORに関するどの分野で誰がどんな研究を発表しているかといったことは、知りたい情報にちがいないと思います。そこで、第一線で活躍している研究者の方々に、最近得られた研究結果について、原著論文とは別の角度からわかりやすく紹介して頂くことを企画しました。この連載では、論文のイントロダクションのように内容を簡潔にまとめることよりも、むしろ研究内容をやさしい文章でわかりやすく紹介することに主眼をおいています。

新しい研究結果をわかりやすく紹介するということは、決してやさしい仕事ではありません。普段同じ専門分野の人を相手に論文を書いている研究者にとって、わかりやすくかみ砕いて記述するということは、ある種の苦痛をとまなうこともあるのではないかと思います。本連載には、現在までに室田氏(京都大学)、川崎

氏(九州大学)、木島氏(筑波大学)からご寄稿を頂きました。新しい研究結果をわかりやすく紹介して頂くという当初の目的がどこまで達成できたかについては、読者の判断にゆだねたいと思いますが、それぞれの著者が、上記に述べた目的を達成するために大変努力してご執筆して下さったことは間違いありません。

多くの人が興味を持っている研究テーマは、年々変化しています。十数年ほど前には、不動点アルゴリズムが活発に研究されていましたが、それに関する論文を最近はあまり見かけません。また、Karmarkarの発表から内点法が爆発的に研究されてきましたが、ここにきて少しおさまってきたような気がします。最近は、正定値計画問題に関する研究論文をよく目にします。これは連続的な最適化に関する分野での変化ですが、他の分野でも同様であると思います。本連載が、このように時とともに変化する研究テーマの最近の動向を把握することにも役立つと思います。

卒論あるいは修論などの研究テーマを探している学生にとって、原著論文を読みながら自分の興味にあったテーマを見つけることは、並大抵のことではありません。論文を読んでみても、細かい証明を追うことに精一杯で、どんな目的で何を研究しているかという大筋を理解することがなかなかできないのではないのでしょうか。このような学生のテーマ探しにも、本連載が役に立つのではないかと期待しています。